

モノクロ42P

僕の目の前で
母さんが

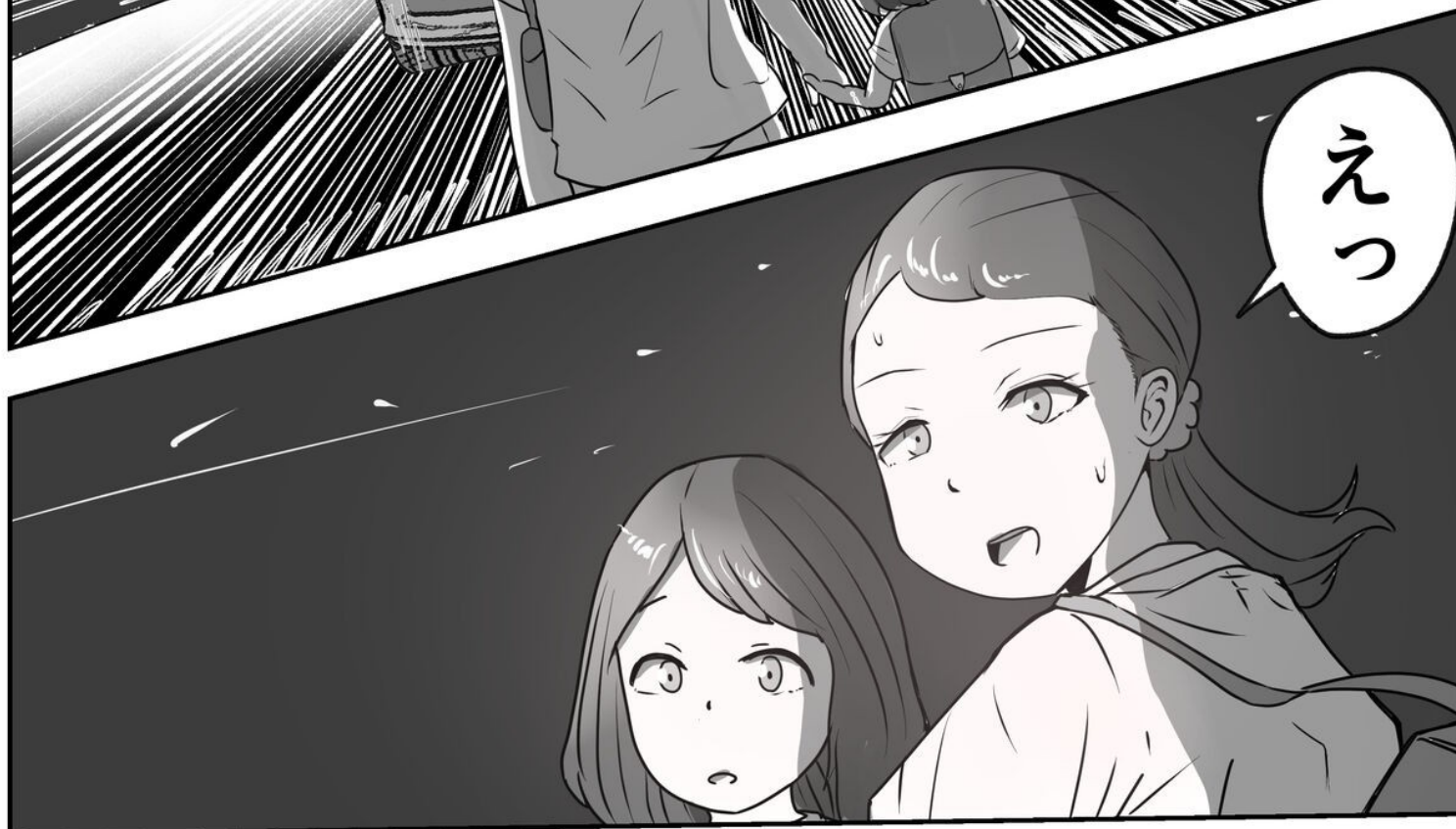
自宅占拠
無限種付け



その日

父さんは

会社の飲み会だった

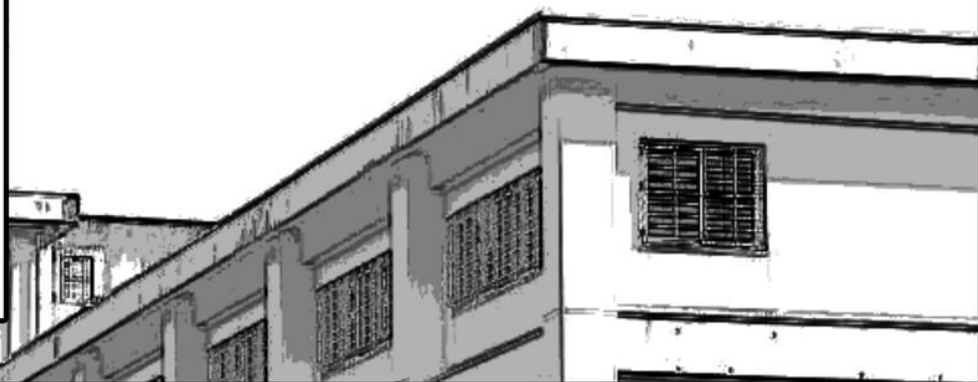


相手の母子は
即死だった

あ……
あ……

父さんは飲酒運転で
情状酌量の余地なく
刑務所に入った

トロイ……

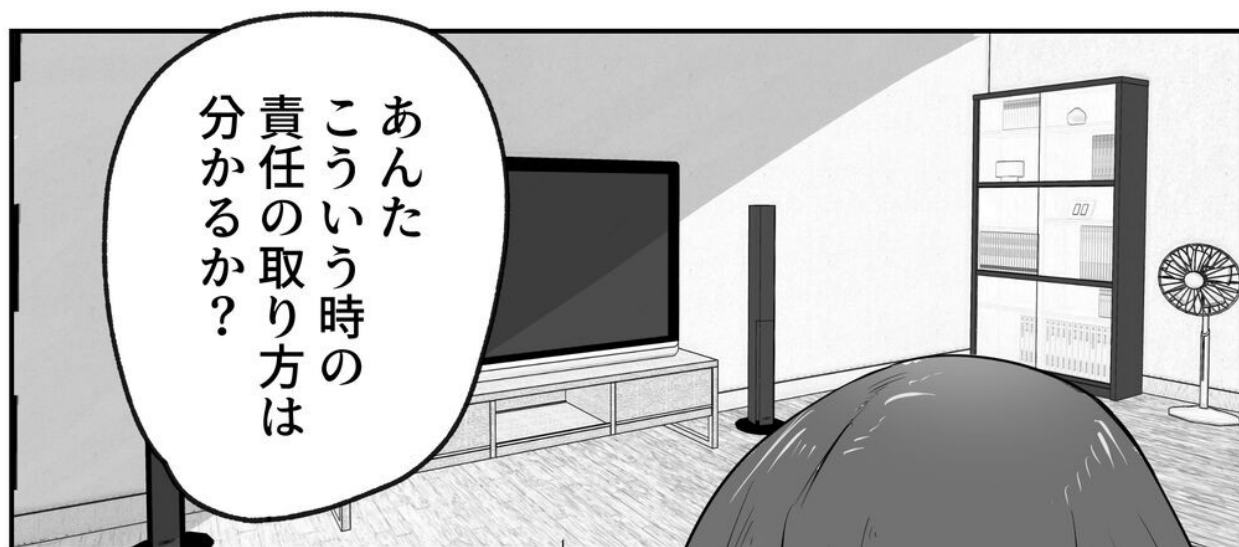
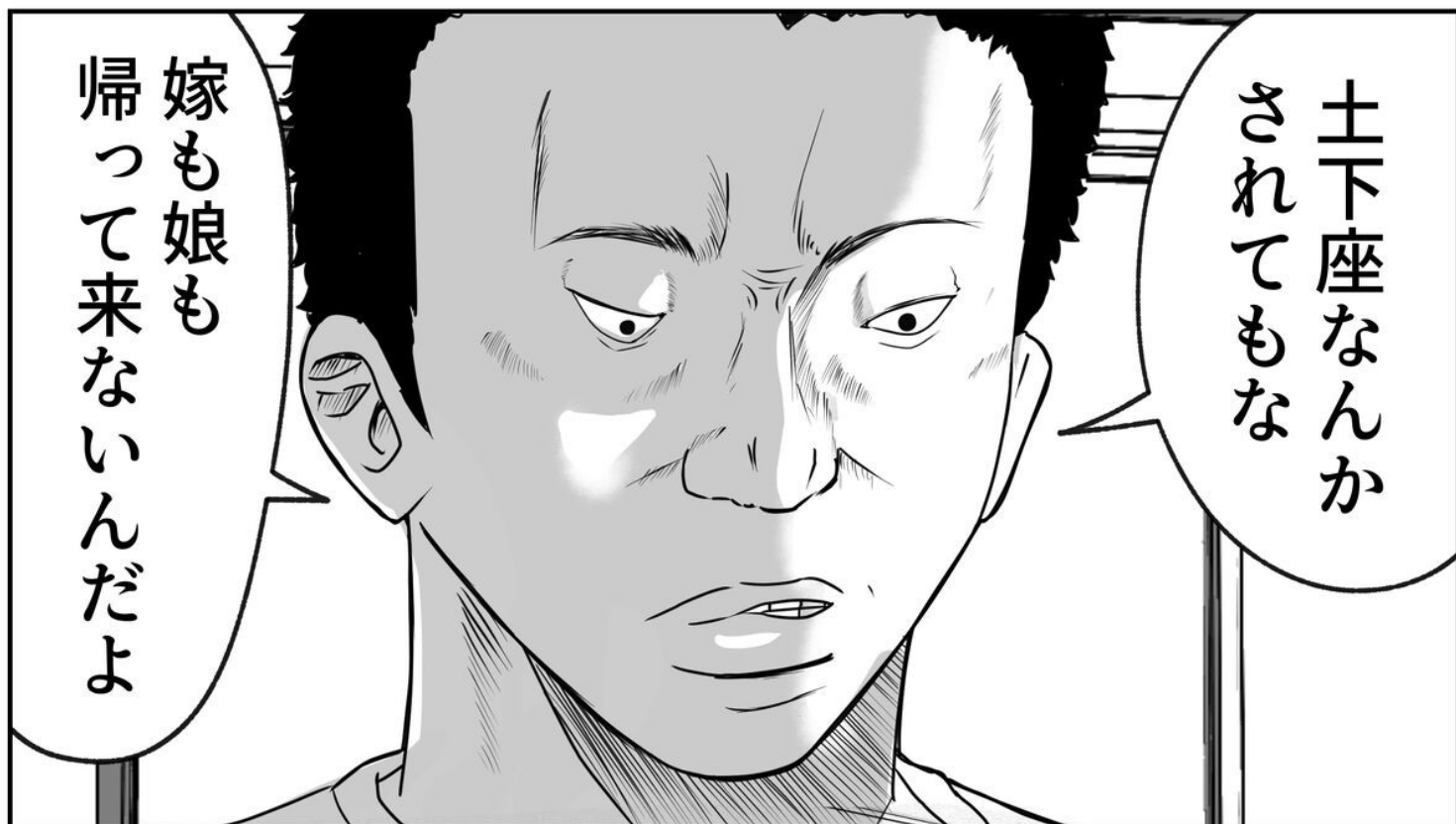


責任を感じた母さんは
僕を連れて
相手方の父親に謝罪に行った

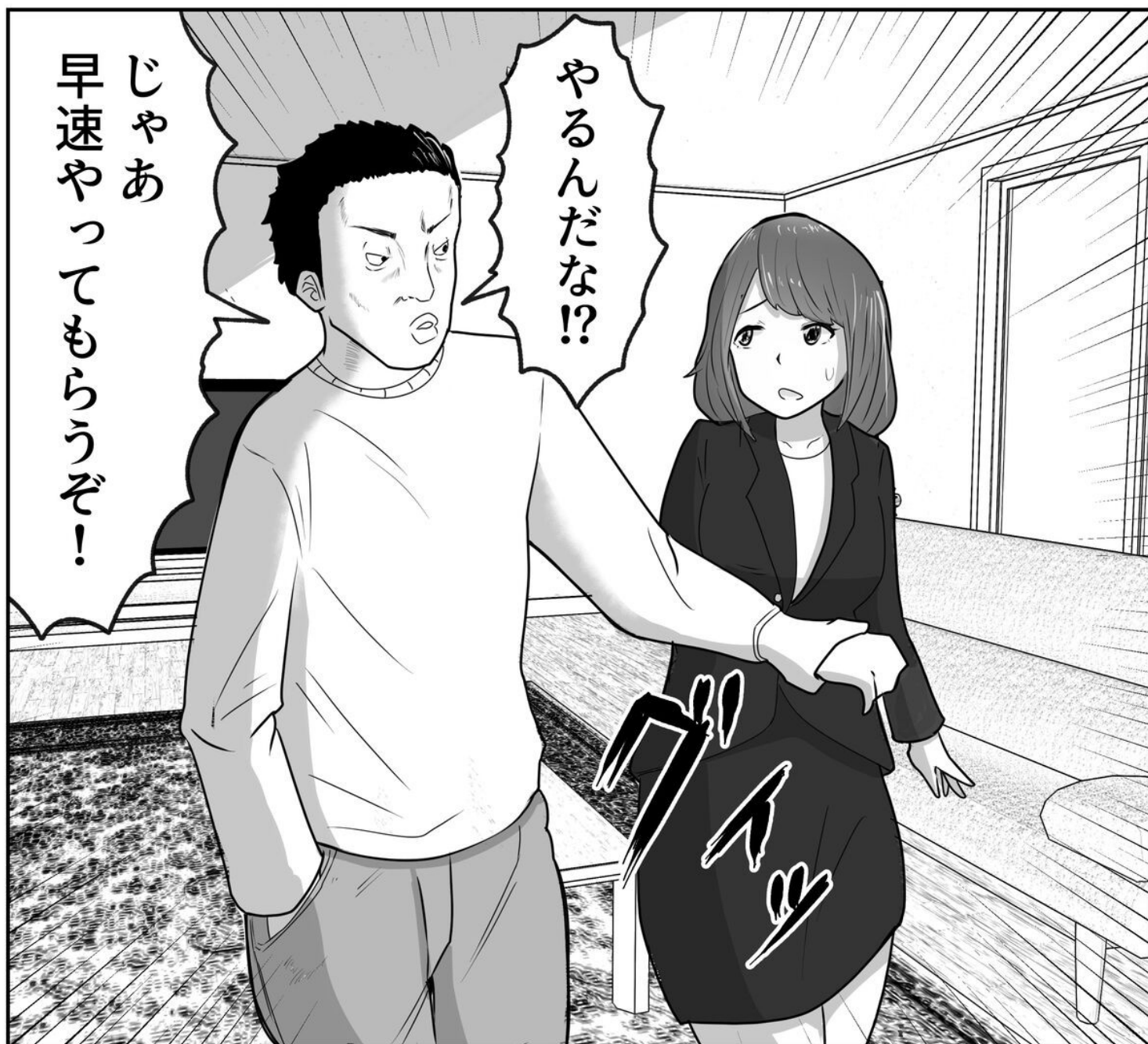
今思えば
これが間違いの
始まりだった





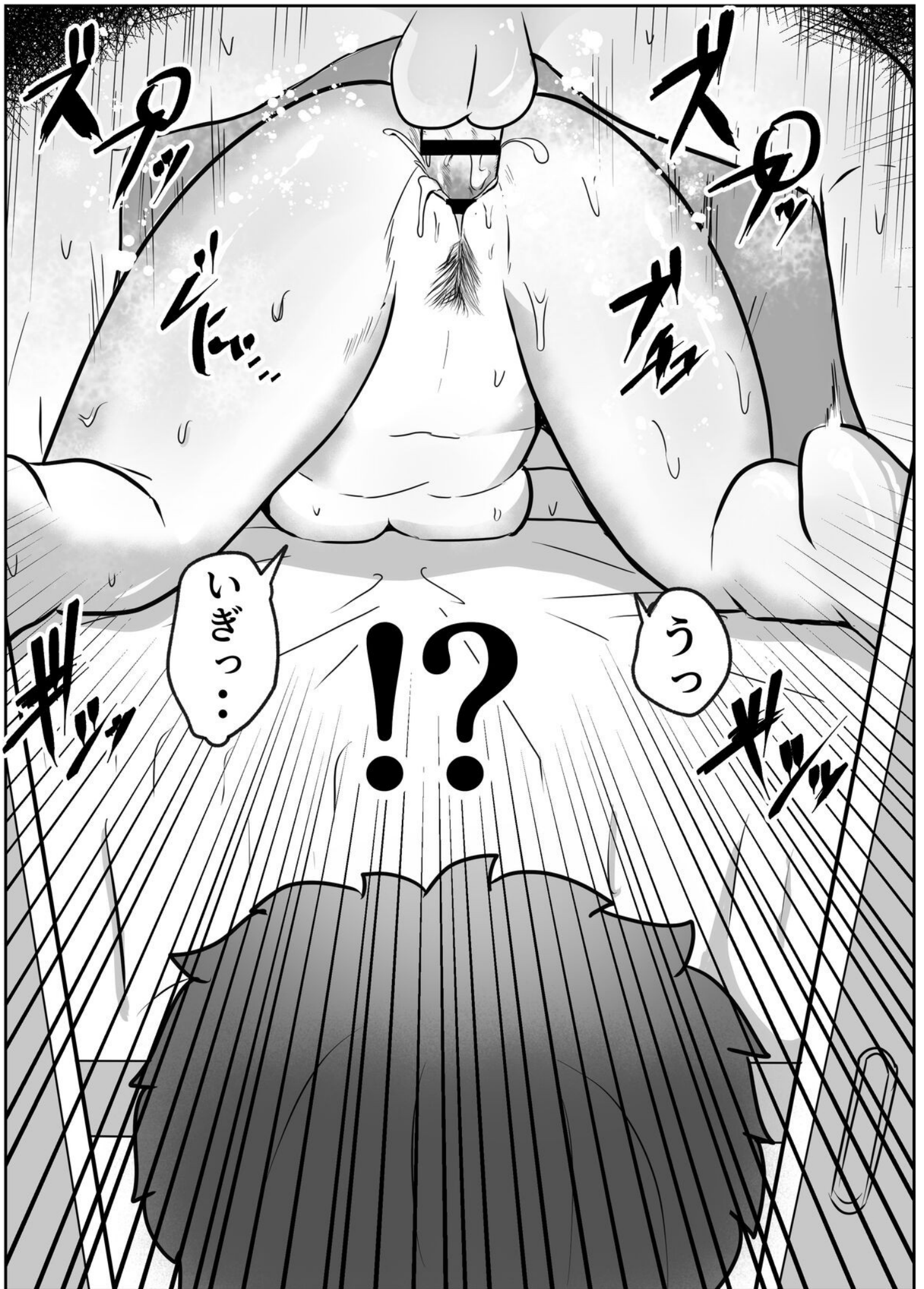












二人とも裸？

これも
家事なの？



よし
次は仰向けになれ

はい……









あのな

嫁の代わりに
なるなら

中出しぐらい
当たり前…

すぶ、すぶ

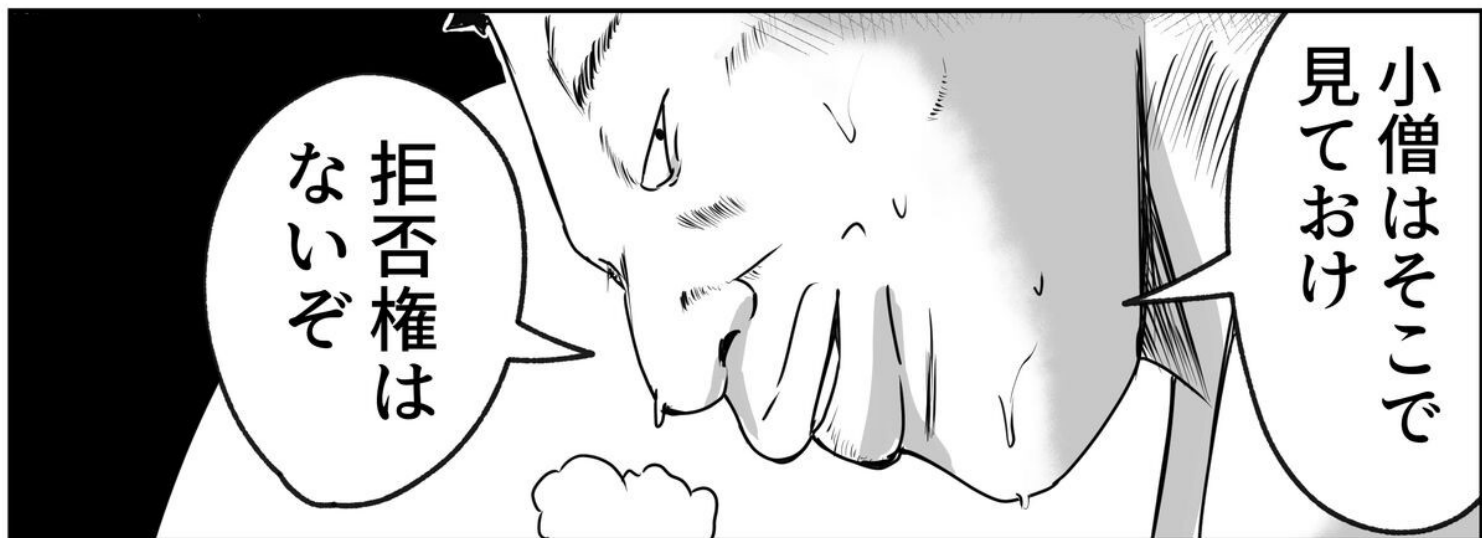


だろ？

はい…







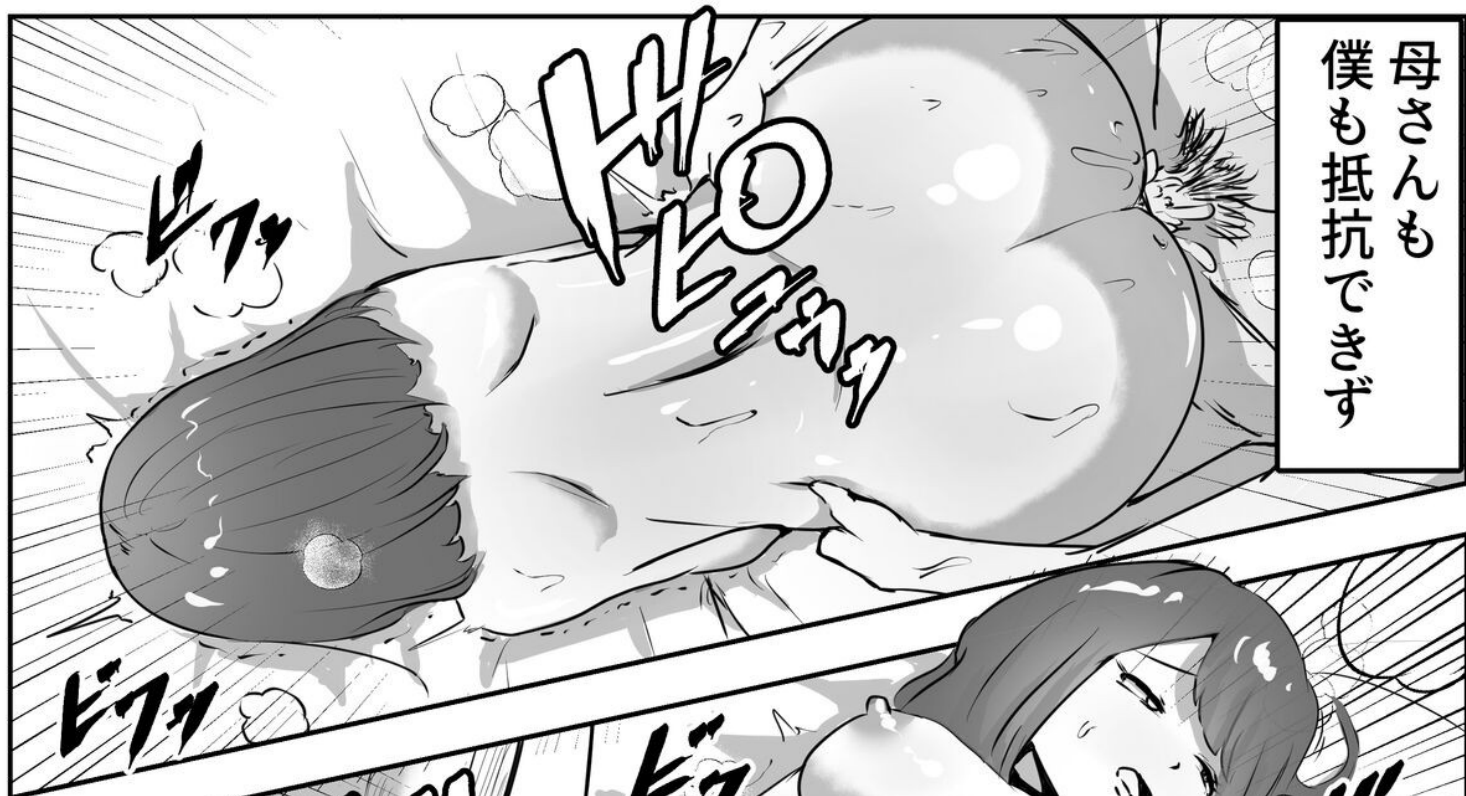


やめっ……

お前は
ここから
生まれたんだぜ！

オロブン

母さんも
僕も抵抗できず



母さんは
僕の目の前で



『償い』を
続けさせられた





まだ・・・
続けるんですか・・・？



そうだな・・・
そろそろ勃ちも
悪くなってきたし





当時の僕は
母さんとオジサンが
何をしているのか
分からなかった



おちんちんは
オシッコをするための
ものなのに

それを赤ちゃんが
生まれるところに入れて
何が良いんだろう



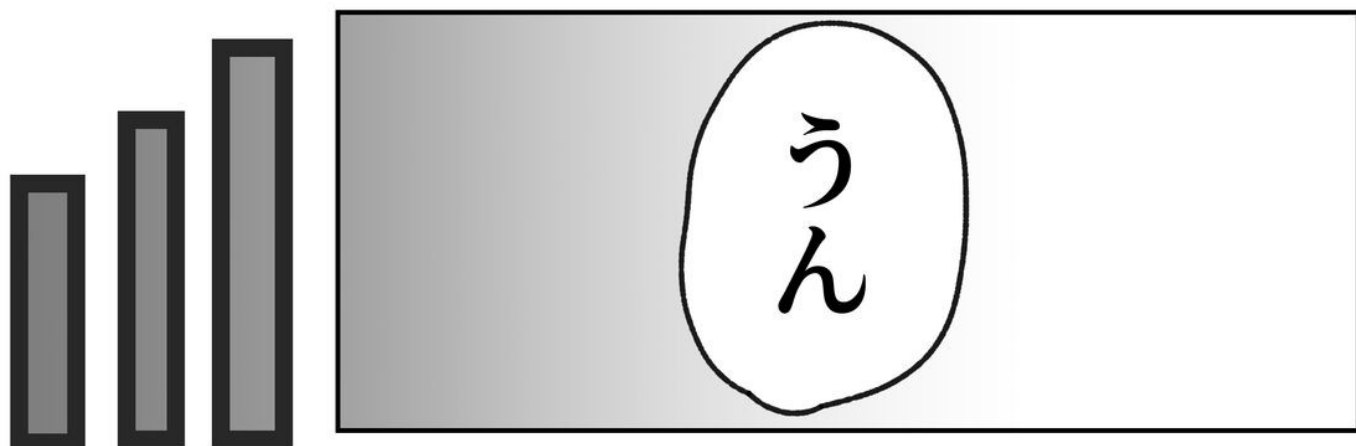
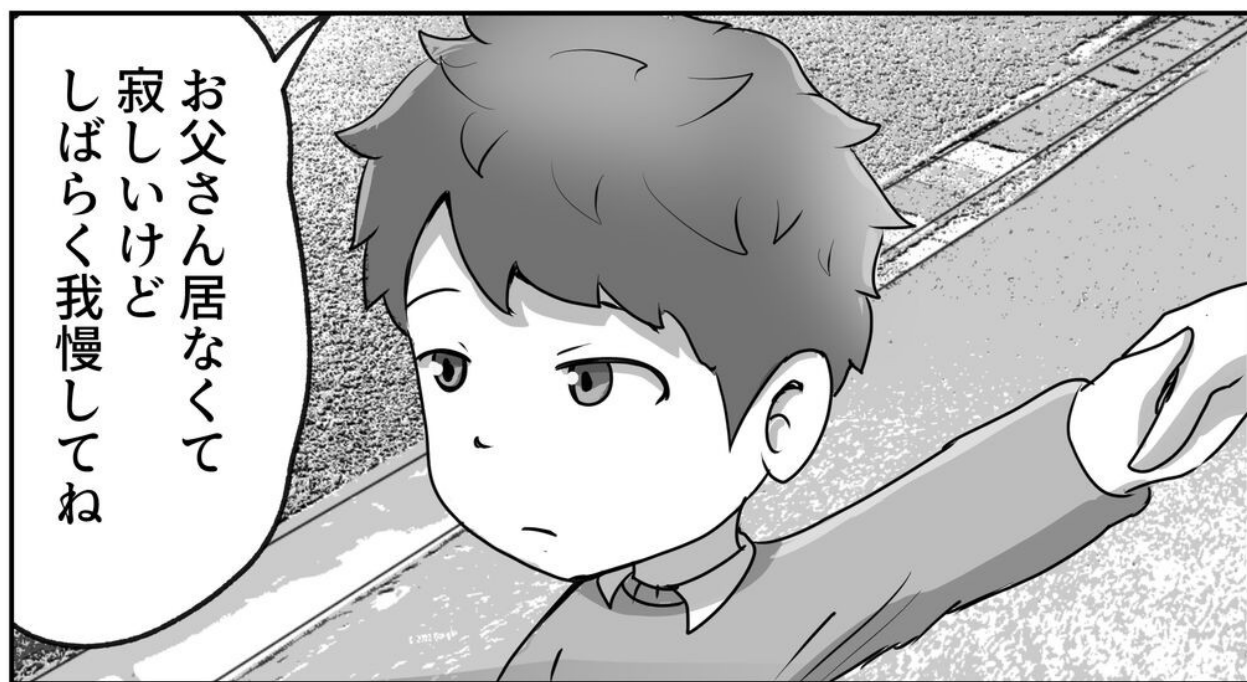
そんなことばかり
考えていた

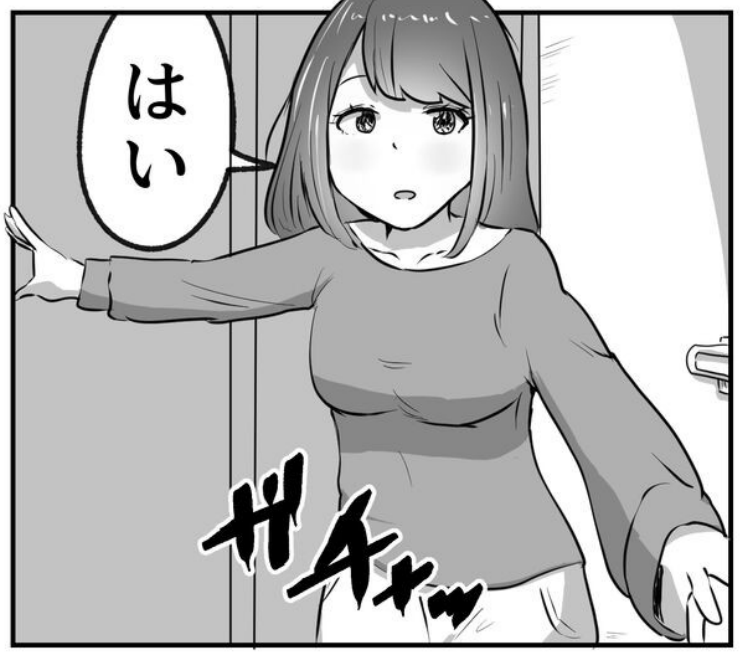
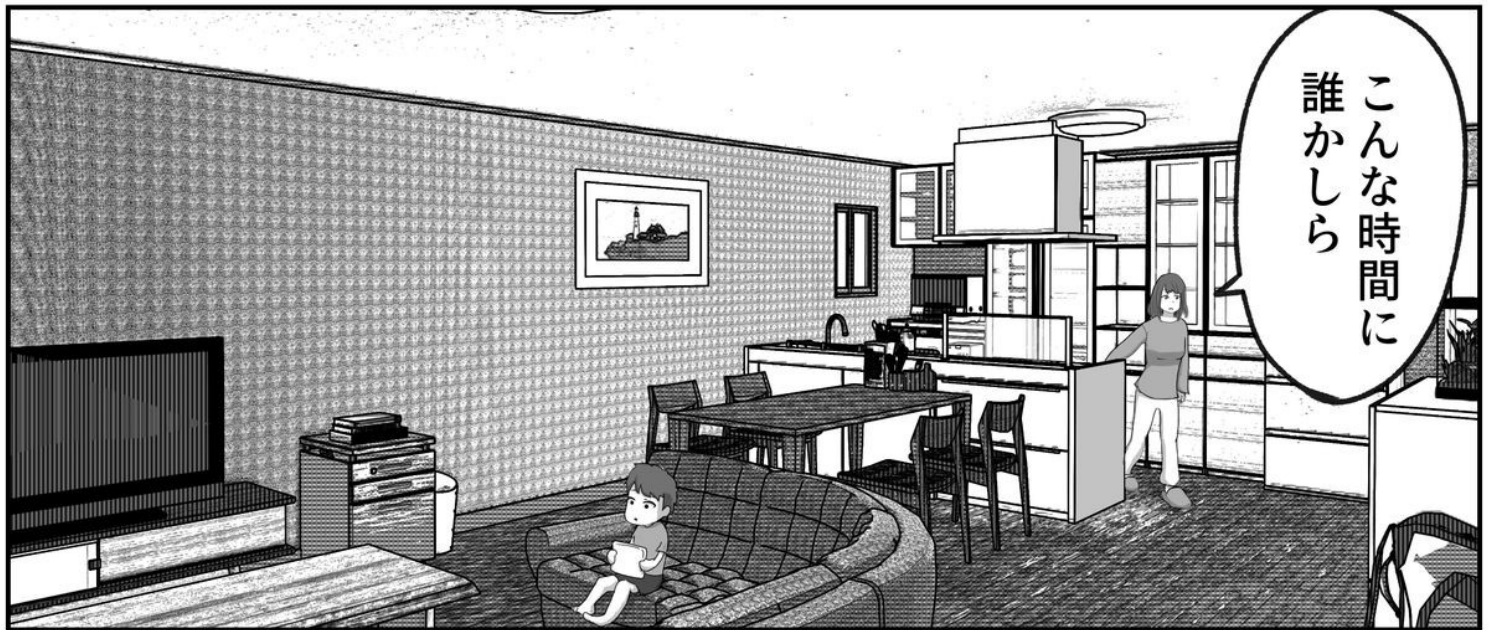


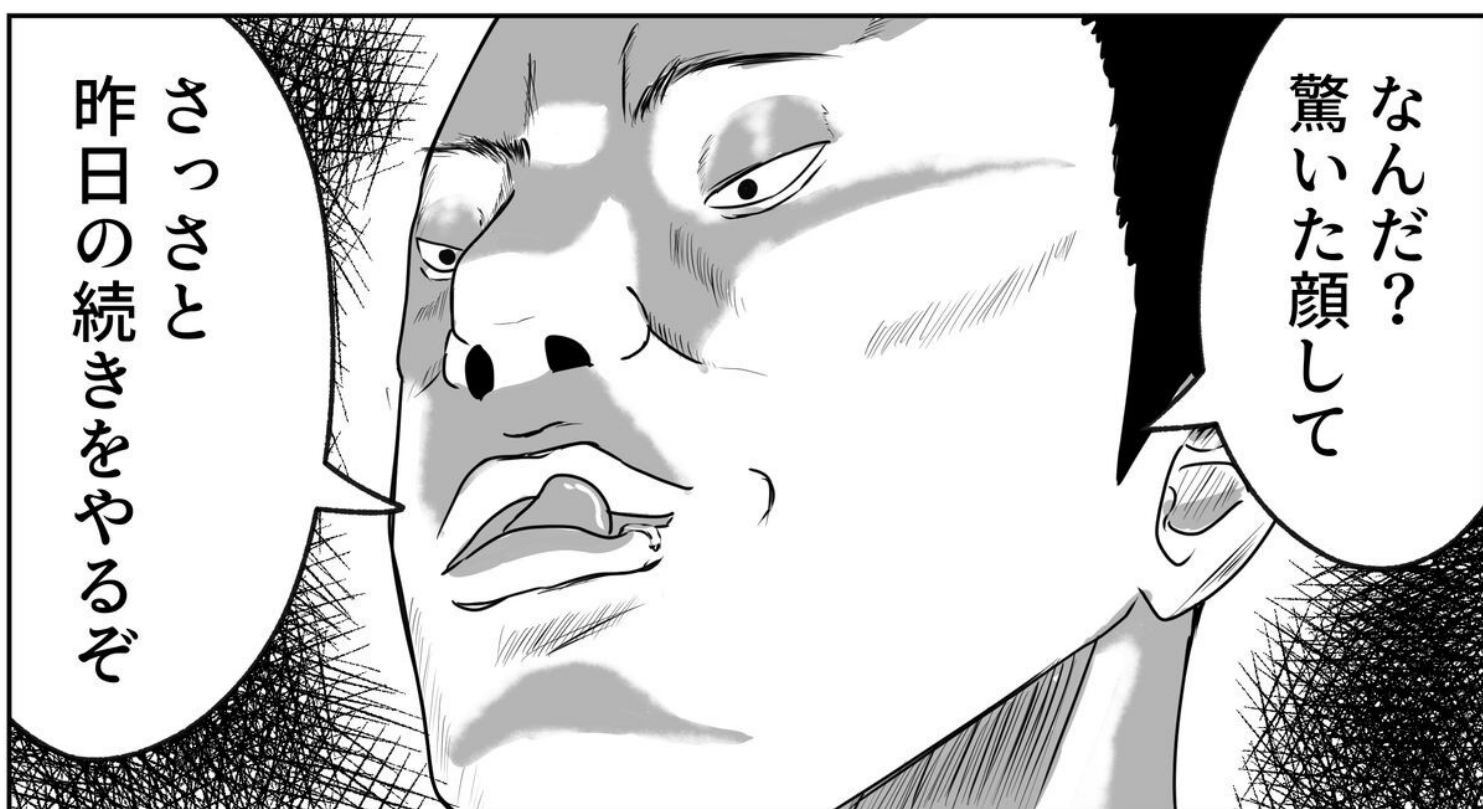
ゆうた…

今日見たことは
忘れてね…









『償い』は終わってなかった



母さんは
服を全部脱がされ



またオジサンのおちんちんを
赤ちゃんを産むところに入れた

そして僕は



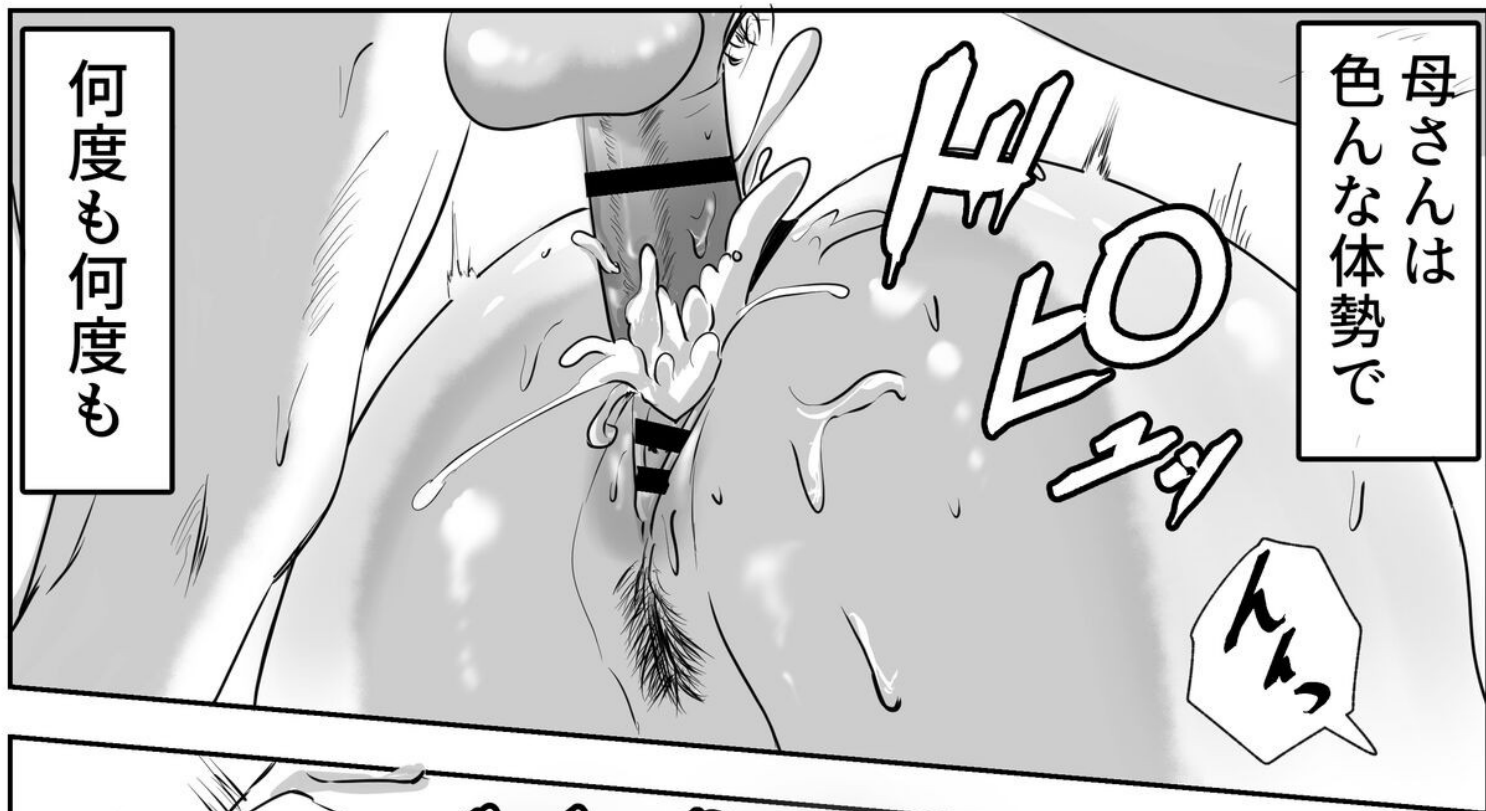
その様子を見るように
命令された

小僧
よく見てろよ



母さんは
色んな体勢で

何度も何度も



オジさんの白い液体を
体の中とか

顔や体中に
出されたりした



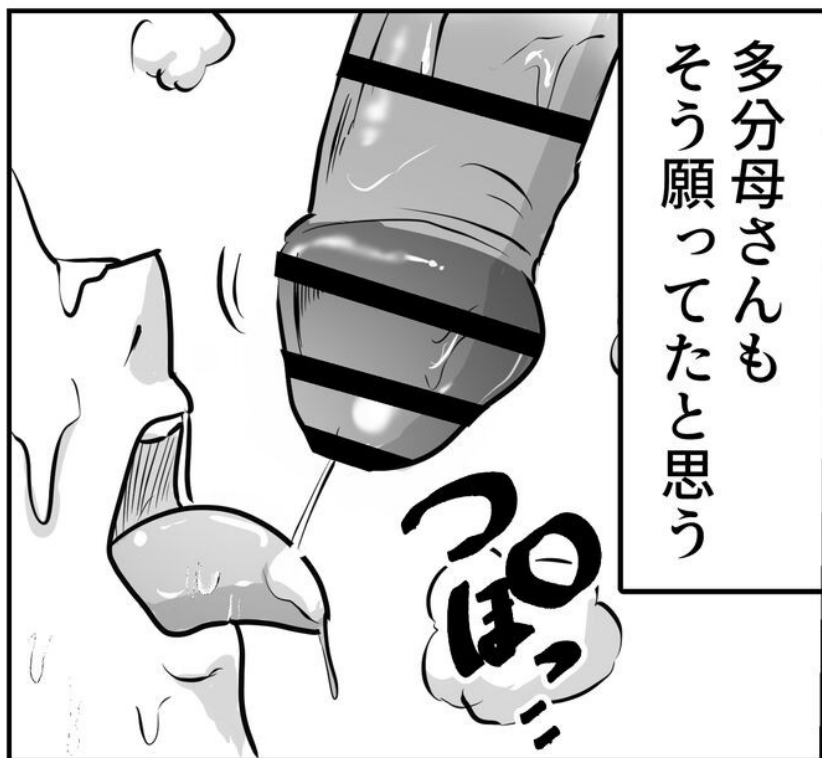
オジサンはそれを4〜5回もすると
また昨日のように母さん
おちんちんをお掃除させた



これでもう
帰ってくれる



多分母さんも
そう願ってたと思う



けどオジサンは
帰らず

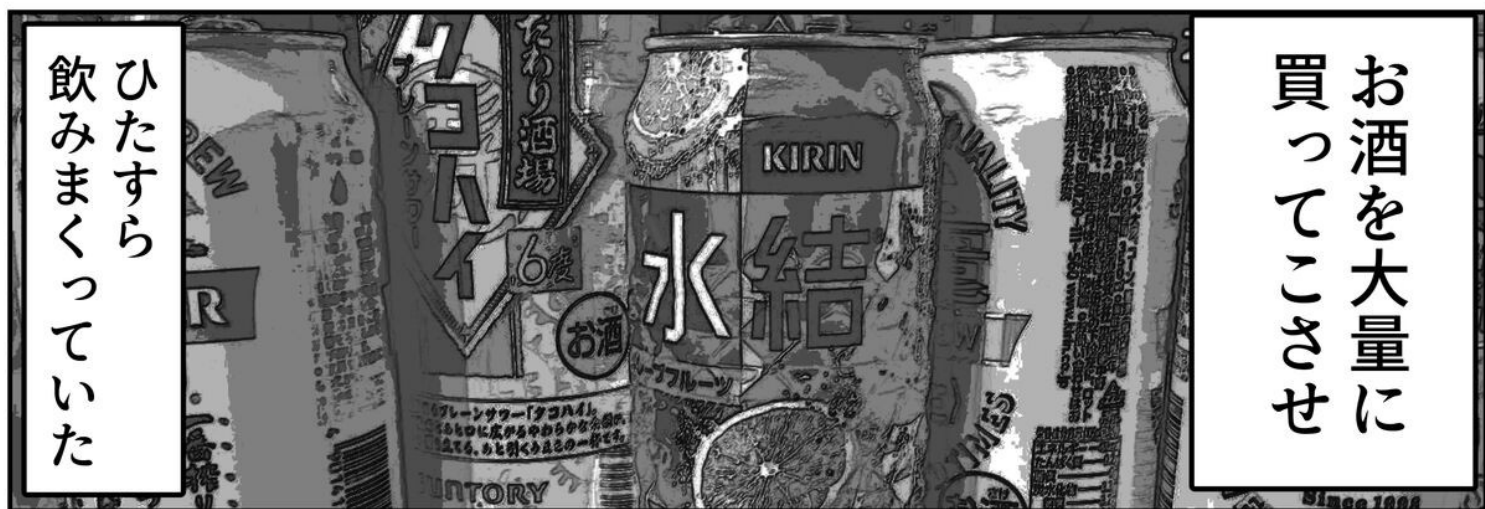
おう
飯作れ

ずっと居続けた



お酒を大量に
買ってこさせ

ひたすら
飲みまくっていた



母さんには
いつでも『償い』が
できるよう

家の中では
全裸でいるように
命令した



そしてオジサンの
気が向いたときに

母さんの都合など気にせず
家中のあちこちで
母さんにおちんちんを入れた



お風呂・トイレ・ベランダ

玄関や廊下でも
オジサンがやりたくなったらとこ
母さん呼び『償い』をさせた





母さんがおちんちんのお掃除を始めたら

数時間は落ち着けると
思うようになった

取った精子は
ちゃんと飲めよ

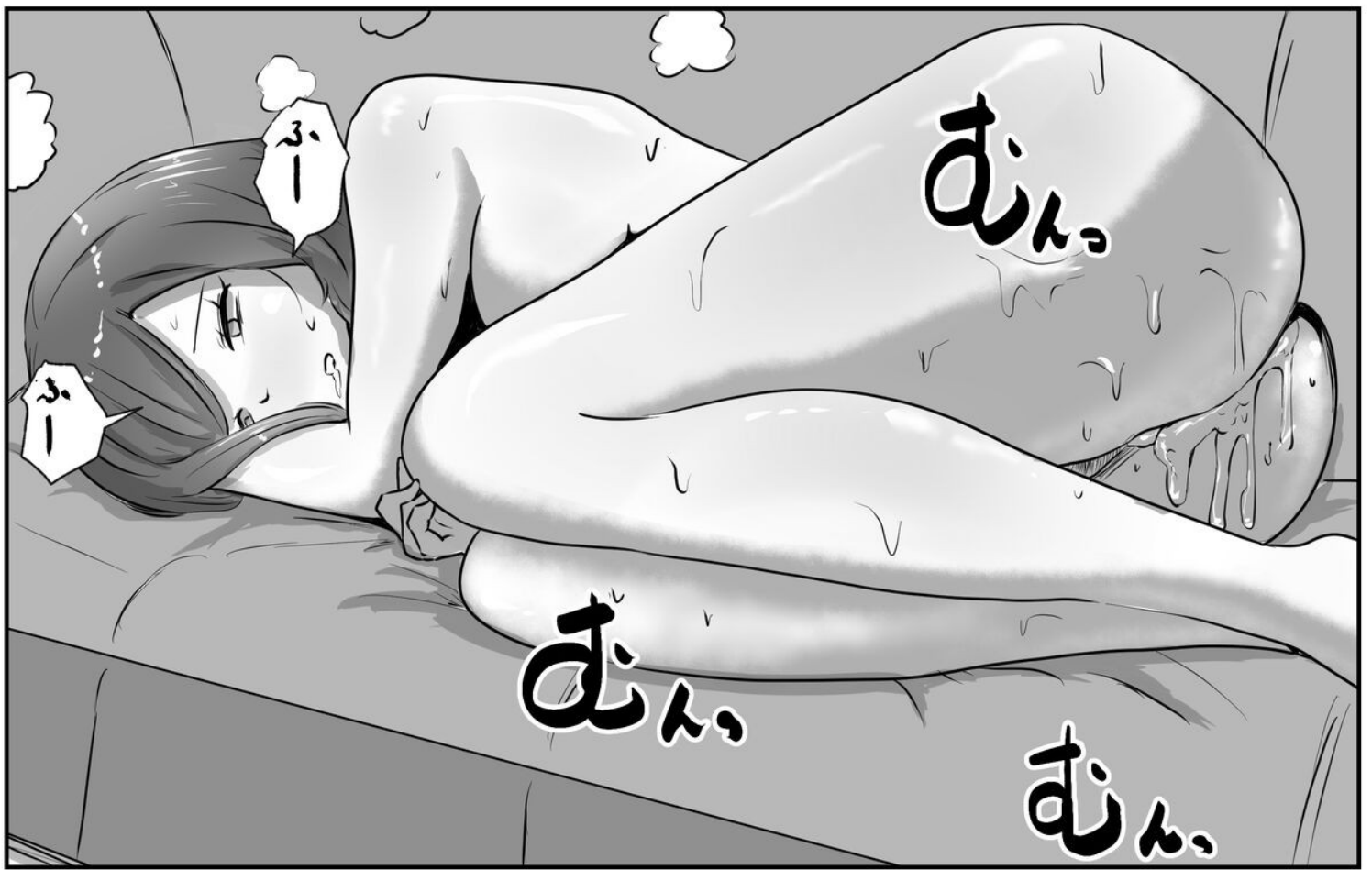
わ……
わはりまひた



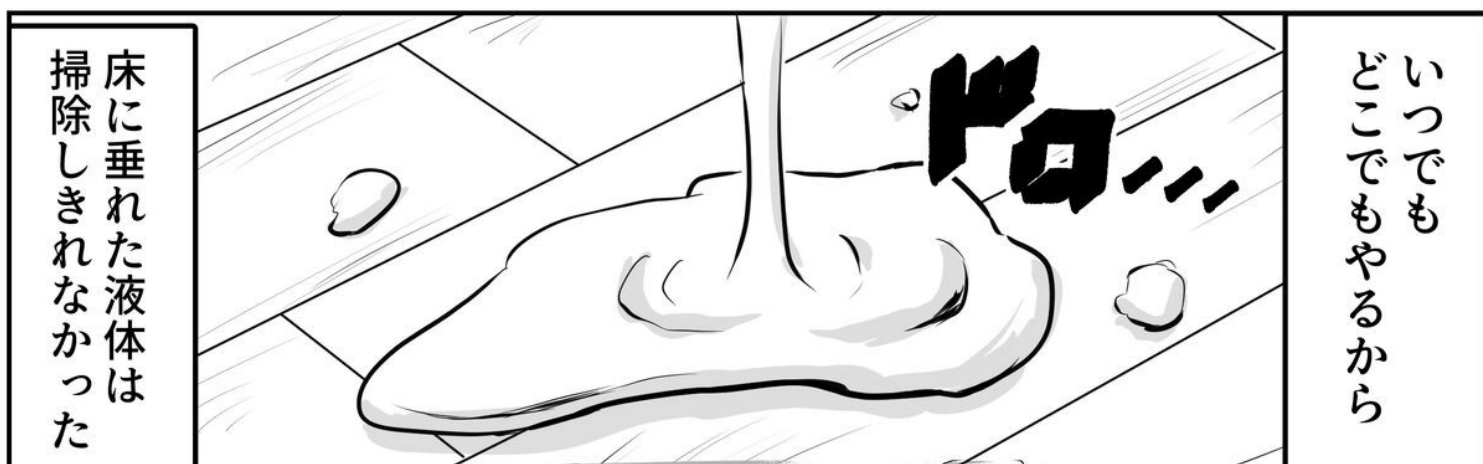
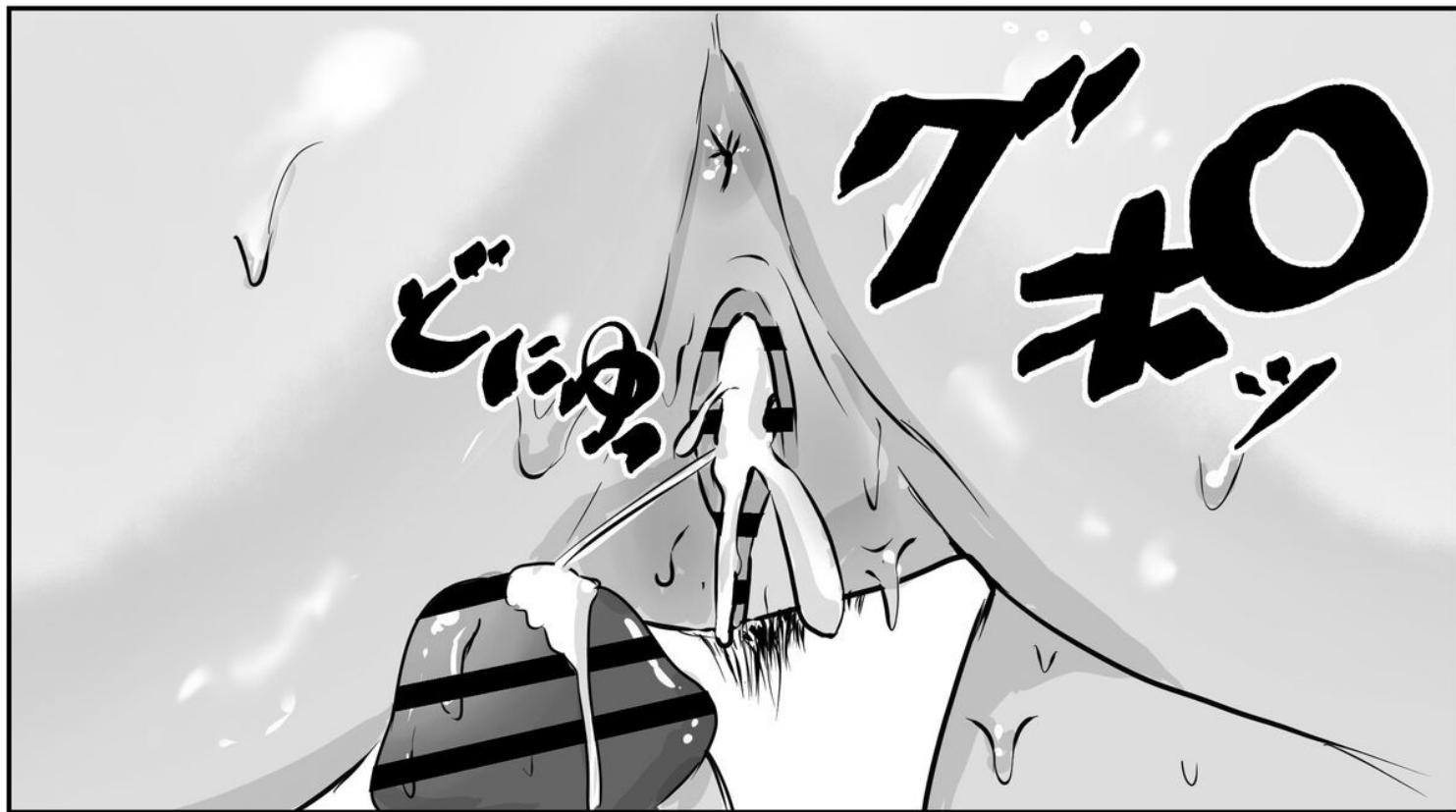
母さんは
大変だったと思う

ほぼ24時間体制で
オジサンの相手をしていた









床に垂れた液体は
掃除しきれなかった

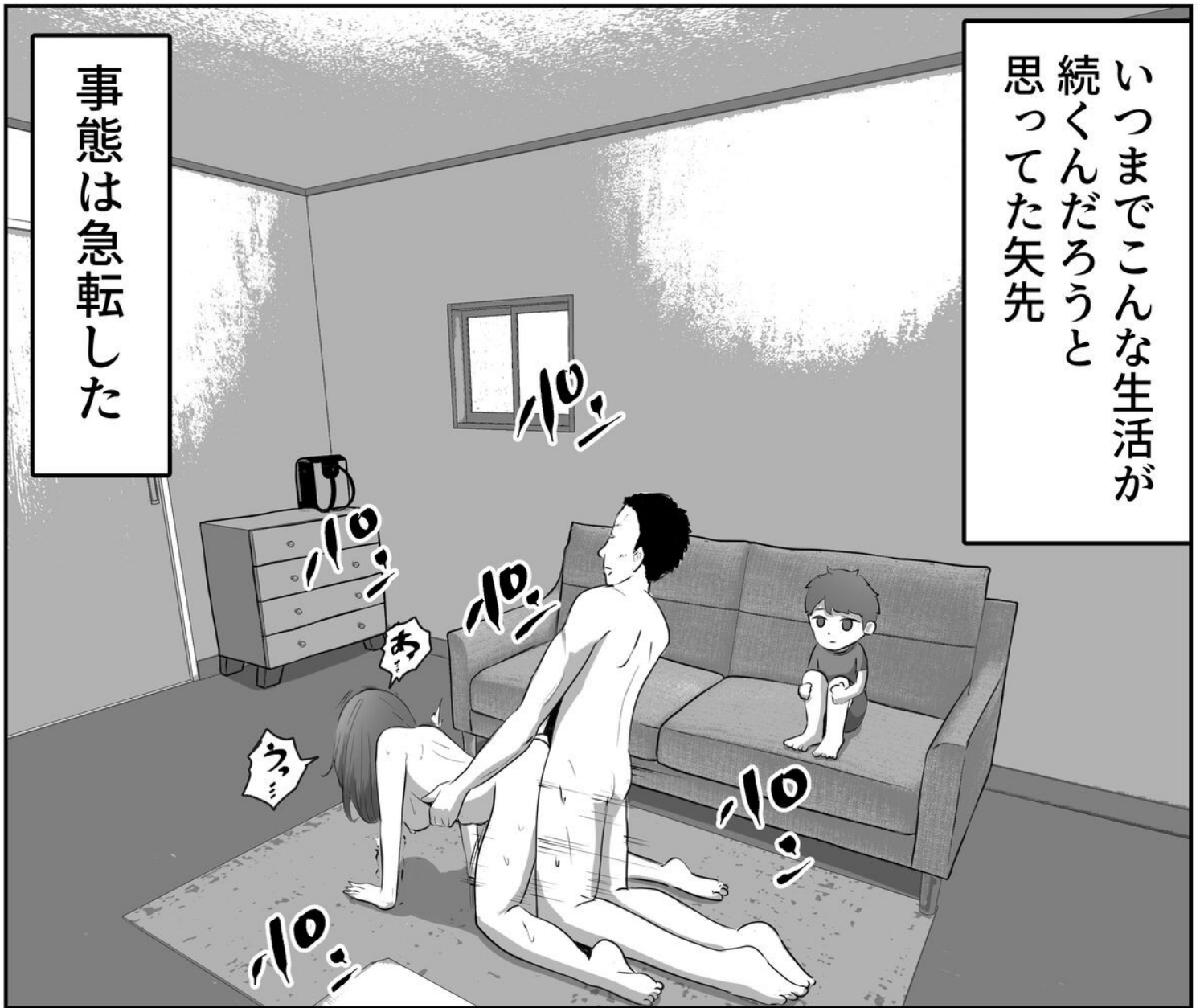
いつでも
どこでもやるから

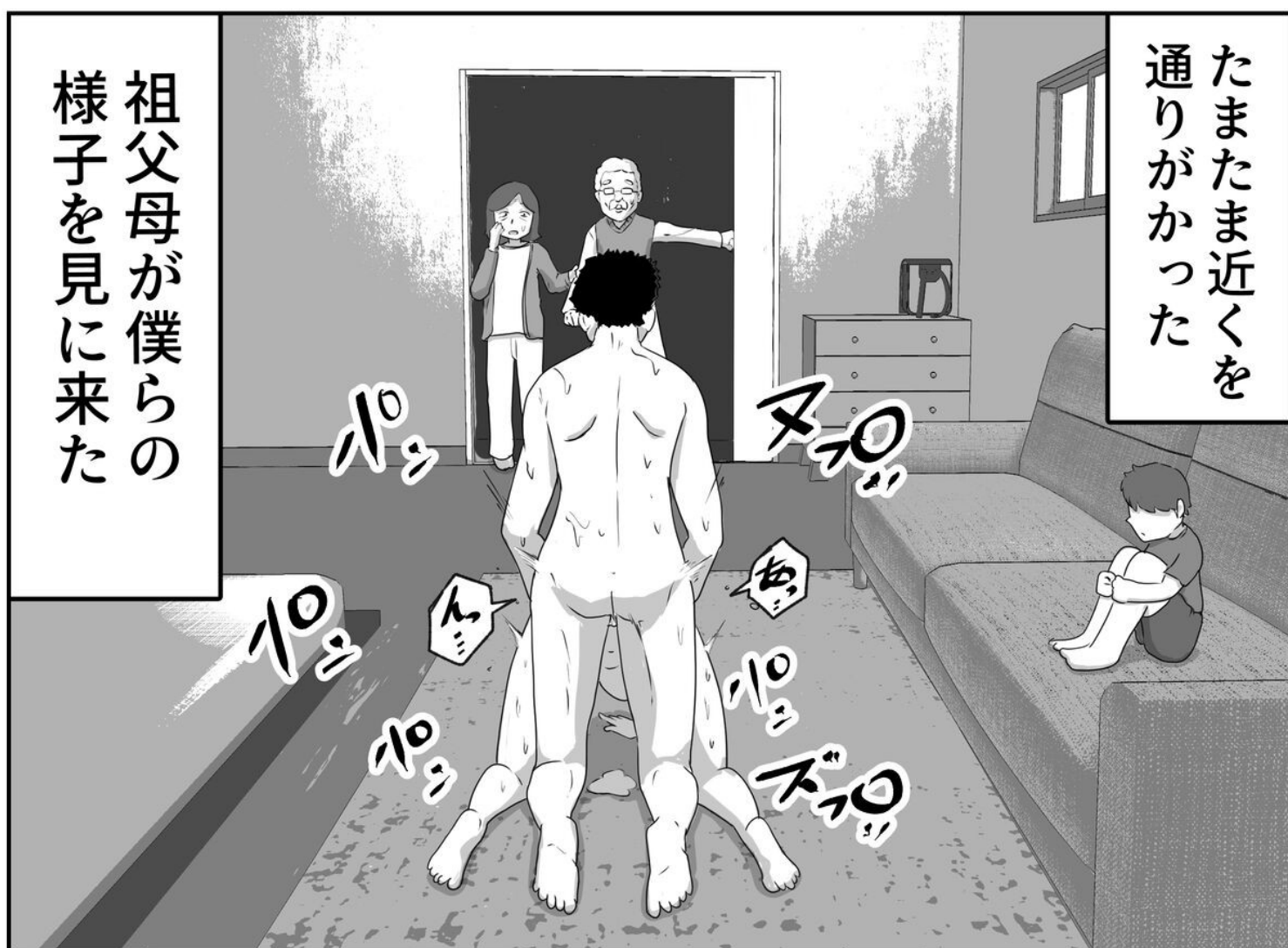


家中に
嗅いだこともないような
生臭さが広がっていた

いつまでこんな生活が
続くんだろうと
思ってた矢先

事態は急転した





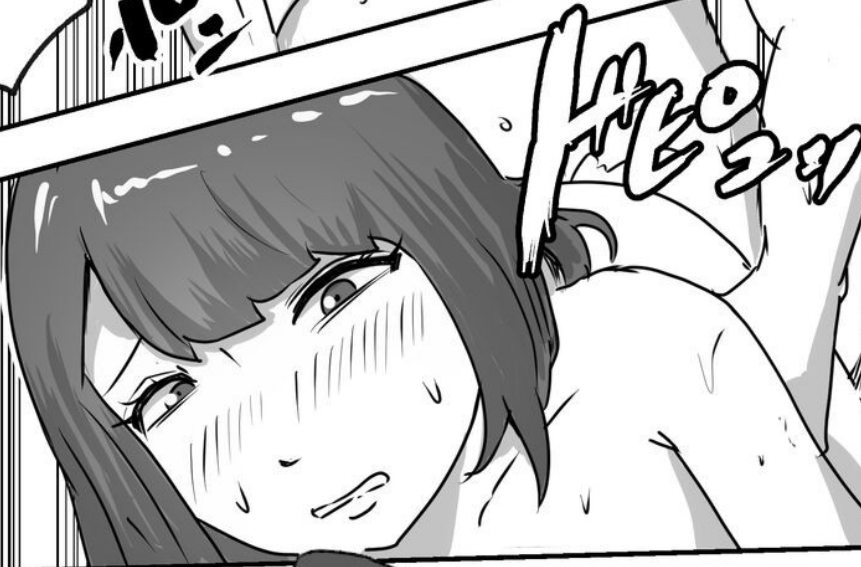
おじいちゃんはおジサンを止めようとしたが敵わず

コラ
やめんか！

待ってろ！
もうすぐで
イキそうなんだよ！

オジサンも
母さんからおちんちんを
抜こうとはしなかった

結局母さんは
おじいちゃんとお
ばあちゃんの目の前
中に出された



その後
駆け付けた警察によつて
オジサンは取り押さえられ
僕たち家族の『償い』は終わった



おい
動くな！

最初に謝罪をしに行ってから
3カ月経っていた

オジサンは同意性交だった
ということは無罪放免。

僕たちは家を売り払い
母さんの実家に引っ越した

綺麗だね

母さんがさせられていた
『償い』の意味を知ったのは

うん

もう少し
経ってからだった